

支える人を支える 京都の 福祉

『京都の福祉』は福祉関係者に福祉の課題や情報を提供する「京都府社会福祉協議会」(府社協)が発行する広報誌です

2021
04月号
no.593

▼4ページ
わっかプロジェクトつないで「じゅっ」!



●今月の「ふくしびと」は保育教諭・吉村葉さん ▼7ページ
●これからの私たちが目指すもの
↳京都府社協・第5次中期計画↳ ▼2ページ

🌱 コロナ禍の終息なく、新年度を迎えることになった。窮屈な行動変容を強いられた一年が更に続く。変異株ウィルスの動向も気掛かりだが、私達自身も流れに身を任せるのではなく、この間の気付きや学びから、未来に向かって変わらねばならない。

🌱 今、府社協も正念場にある。懸案である組織・財政基盤の強化に向けた一歩を踏み出した。中でも会員区分の見直しは約半世紀振りとなるが、社会福祉を巡る動きに漸く追いついた。府社協の意義や役割などを、福祉関係者はもとより多分野の方に理解してもらえよう行動で示していかなければならない。人ははじめ生物は環境に適応できるかどうかで、その存続・絶滅の岐路を潜ってきた。組織も同じで、変わらない組織に将来の展望は拓けない。

🌱 地域福祉を推進する広域社協として、多様な利害関係者との共鳴や協働をどう築いていくのか。理事や評議員等の見識を活かし、広く外部の意見も取り入れ、如何に職員がやり甲斐を発揮できるのか。この高次方程式の解の一つは、前例踏襲を乗り越える能動的な行動変容である。

もえくさ



M.Y

これからの私たちが目指すもの ～府社協の第5次中期計画の実現に向けて～

コロナ禍によって日常生活がまだ落ち着かない新年度ですが、私たち京都府社会福祉協議会はこのような状況にどのように向き合っ、第5次中期計画をどのように実現していくのか、今年度で2年目となる取組みや思いについて府社協職員の声を、また計画策定にあたって御協力いただいた第5次中期計画検討委員会の荻原委員から府社協へのメッセージを紹介します。

基本理念 (ビジョン)

つながりをいかして、
だれもが尊厳をもって
いけることができる社会をつくる

京都府社協の果たす 使命 (ミッション)

基本理念を実現し、共生社会を創るために、京都府社協は、次の役割(ミッション)を果たします。

- 1 住みたい地域で、適切な支援が受けられ、可能性を上げながら、安心して豊かに生活することができる社会をつくります
- 2 多様な価値観への共感が広がり、思いやりを大切にする福祉のまちをつくります
- 3 府民の声を生かした地域福祉に取り組みます
- 4 福祉・介護・保育で働く人が大切にされ、安心して働くことができる環境を整えます

京都府社協が描く 共生社会の姿

「だれもが尊厳をもっていけることができる社会」とは、具体的には次のような状態になっていることであり、府社協が描く共生社会の姿です。

- 1 地域や誰かとつながりのある生活ができ、困ったときに助けてとすることができる社会
- 2 誇り・自己肯定感をもつことができる社会
- 3 自己決定・自己選択が大切にされている社会
- 4 支援の仕組みが整っている社会
- 5 何らかのつながりをもちたいと思う人が、その人が希望するつながりをもつことができる社会
- 6 支えられる人も誰かを支え、役割をもって生きている社会
- 7 地域住民が、自分たちの思いや意見を反映させた福祉のまちづくりを進めている社会
- 8 当事者が課題を発信し、地域の理解を高めたり、福祉施策に反映することができる社会
- 9 福祉・介護・保育で働く人が、専門性をもち、自分を大切に働いている社会

府社協職員の思い



地域福祉・ボランティア振興課
岸 佑太さん

短期的な成果やアウトプットなどが求められる世の中ですが、実は中・長期的に大切なことはあまり変化していません。例えば、「誰かのために何かをしたいのか」という利他の気持ちや、「誰かと関わりたい」というつながりたい気持ちです。これらがボランティアな活動を含む地域活動に繋がっていると、思います。

コロナ禍という激動の時代の中でも、必要なコトやモノを丁寧に考え、検討することのできる場づくりを、これまでどおり市町村社協や会員団体と向きあいながら、一緒に進めていきたいと思っています。

コロナ禍において、これまでの対面での研修実施が難しくなり、オンライン研修を取り入れてきました。対面・オンライン双方の良さはありますが、研修の場が外部からの刺激となり職員自身、事業所、最終的には地域へと研修の受講効果が波及するよう横のつながりづくりを意識したプログラムを実施してきました。

また、今年度は各事業所へ「コロナ禍における人材育成の課題」についてアンケートを実施し、感染症対策に人員が割かれ、事業所内の人材育成が思ったように行かない現状を知ることができました。アンケートから頂いた声を次年度以降の研修に反映できるように努めていきたいと思っています。



研修課
田村 美里さん

検討委員よりメッセージ



第5次中期計画検討委員
京都府老人福祉施設協議会
副会長
荻原 理さん

出口が見えない不透明な時代に、プラットフォーム的な立場で、広い視野を持つ後方支援が行える存在は、府社協の他にはありません。それが府社協の存在意義だと考えますし、もっと自信をもつて頂いて良いと感じています。

計画を立てた以上、結果を求められるのですが、なかなか数値化できない部分もあると考えます。その中で、結果として関わる全ての団体や個人、そして地域(京都府)にとつてその果実が実ることが成果だと思っています。それをどのようにフィードバックしていくかが今後の課題ではないでしょうか。

これからもキッカケ創りの様々な新しい種を蒔いて頂くよう期待しております。

共に生きる社会を皆さんとともに

第5次中期計画を作る際、職員皆で未来のありたい姿「共生社会の姿」を描き、その姿から順番にさかのぼって、どのような事業や活動を行えばよいか考えました。そのありたい「共生社会の姿」は、コロナ禍にあっても変わりません。

今年度も京都府社協が目指すものを見据え、職員が述べたように、検討できる場や事業所間のつながりづくりなどを進めていきます。

また、荻原委員からの意見にあった、京都全体の成果を得るために広い視野を持って後方支援を行うことは、広域社協である京都府社協の姿のひとつです。

その姿を意識しながら京都府社協の使命に邁進していきたいと考えています。

一方で、私たちだけで、多様化・複雑化する福祉課題や、地域のつながりの希薄化などに対応することはできません。会員団体の皆様をはじめ、関係機関・団体等の方々の声や力が必要です。ぜひ様々な場面で皆さんの力をお貸しいただきたいです。そして、皆さんとともに未来のありたい「共生社会の姿」を共有し、誰もが尊厳をもって生きることができる社会を目指していきたいと思っています。



わっかプロジェクト

つないでいこう!

新型コロナウイルスの影響で活動が制限されている「わっかプロジェクト」。中でも活動を続ける参画法人にお話を伺いました。

他の施設が実施している
中での工夫や状況について
共有し、参考にさせていただきたい

わっかで活動している法人を支えることも
貢献活動のひとつです。

生鮮食品や冷凍食品の
取り扱いを増やして欲しい

障害ある子どもたちへの教育に困難を感じているケースがあるので、アドバイザーと連携するなどして取り組んでいけないかと検討中

人と繋がる
アイデアを
考えてもよいと思う

参画法人に聞きました!

コロナ禍で活動を続ける思い

少しずつ以前の生活に近づけられるようになれば

子育て支援として、新たに砂場を作成し、近隣の方に使っていただけるようにしたいと計画中

子どもたちの声を聞く機会がなく寂しい

生活困窮家庭の中にはネット環境が整っていない所もあるので、市町村行政などと連携しながら実施していきたい

活動をやらなければという思いと、利用者の安心安全のためにリスクは負えないとの思いがありジレンマがある

お弁当に使いやすい食材が欲しい

- 京都障害者福祉センター 京都基督教福祉会 白川学園 宏量福祉会
カトリック京都司教区カリタス会 大江福祉会 みつみ福祉会 みずなぎ学園
大樹会 真愛の家 安寿会 舞鶴双葉寮 宝林福祉会 松寿苑 宇治福祉園
倣襄会 利生会 南山城学園 青谷学園 うめの木福祉会 向陽福祉会
向陵会 秀孝会 八幡福祉協会 やすらぎ福祉会 京都ライフサポート協会
みねやま福祉会 成光苑 ひまわりっこ 牛ヶ瀬福祉会
このはな 大照学園 美山育成苑 新明塾
(順不同)



取材時はチキン南蛮とキッシュを販売

食でのつながりを残していくために

本格的な味わいの日替わりメニューをFacebookで発信

（福）宇治福祉園の場合 ことも食堂 ▼ お惣菜販売へ
京阪宇治駅のほど近くにある、（福）宇治福祉園が運営する子ども食堂「みんなのきくすてしよんTeamU」。新型コロナウイルス感染症対策のため、子ども食堂としての活動ができない中、2020年2月から惣菜販売へと切り替えました。
「お惣菜の販売は、法人が運営している認定子ども園の保護者のニーズとして元々あったんです。そこで、食堂の活動が消えてしまうのは良くない、何らかの形で道筋は残しておかなければいけないと思い、お惣菜の販売をしています。ここは、法人本部とは離れた場所が拠点なので、感染拡大のリスクも最小限で活動できるのが大きいですね」と杉本理事長は話します。
店頭にはチキン南蛮やキッシュなど、バラエティ豊かなメニューが日替わりで並びます。メニューは毎日Facebookで発信し、夕方4時から販売を開始。人気のお惣菜は、早ければわずか1時間ほどで完売することもあるのだとか。



「子ども食堂からの流れなので、小さいお子さんでも食べられる味付けにしています。子ども食堂の時は主に子どもがメインでしたが、お惣菜は近所に住む一人暮らしのご年配の方も買ってきてくれます。幅広い世代に対応していくことが大切だと思います」と話すのは、元フレンチのシェフで、メニューの作成や調理を担当する福山さん。「本格的なお店の味が家で食べられて嬉しい」、「すごい助かる」といった声がある一方、子どもたちからは、食堂再開を望む声も出ているそうです。
「子ども食堂は、そこに行けば誰かがいる、子どもの居場所としての役割もあります。食堂と惣菜販売、一番望まれるのは両方やることだと思います。あまり結果にとらわれずに、この状況下でもできることを都度考えていくことが大切ではないでしょうか」

コロナ禍で再確認した、社会福祉法人の存在意義と価値 -わっかになって繋いでいくこと-

2020年、新型コロナウイルス感染症の流行。これまで取り組んできた地域公益活動の多くが中止などの影響を受け、地域と共生してきた社会福祉法人の真価が問われることとなりました。そのような中、京都地域福祉創生事業(わっかプロジェクト)では、これまでの活動に変化を加え、コロナ禍だからこその取り組みに切り替えて活動を行ってきました。対面や集合しての活動が制限されても、地域の方とわっかに関わる皆さんのつながりが途絶えていないことを、実施アンケートや報告書を見て強く感じます。事務局を担う京都府社協としても、今後さらにわっかプロジェクトの橋渡し役として地域、法人の皆さんと輪になって活動の支援を行っていきます。(福祉経営推進室)

わっかプロジェクト





考えるきっかけになる
言葉がけをしてあげられる
保育教諭になりたい

愛光こども園 保育教諭 ● **吉村 菜さん**

◆この職場を選んだ決め手は？

実習で来た時、指導してくれた先生がすごい笑顔で保育をしていて、私がなりたい保育教諭の理想像だ！と思ったのが決め手です。

◆職場のいいところ

相談しやすい雰囲気もそうですし、わからないことをただ教えてくれるのではなく、自分で考えるきっかけを与えてくれます。

◆休日の過ごし方

映画を見てリフレッシュしています。プロジェクターを使って、おうちで映画館気分を味わっています。

「私は保育園に通っていた頃、保育園で過ごす時間が長い子だったんです。その中で一緒にいてくれた先生がいつも優しく大好きでした。私もこんな先生になりたいとずっと思っていて、保育の道だけを目指していました」と話す吉村さん。幼い頃から保育教諭に憧れ続け、念願叶って保育教諭として愛光こども園で働き始めて8年目になります。

「今年度はフリー保育教諭として、年代問わずさまざまなクラスに入っています。今まで以上に多くの子と関わる事ができるので、いろいろな子のいいところや成長が見えて楽しいですね」
以前、異年齢保育でお店屋さん遊びをした時のこと。最初はぎこちなかった子どもたちも、関係ができてきて遊んでいく中で、年齢が上の子が下の子を気にかけてあげたり、グループみんな協力して考えて、大人が思いつかないようなことを発想したりと、「子どもたちから学ぶことが多く、自分の勉強にもなった」と吉村さんは話します。

【施設名】(福) 愛光福祉会 愛光こども園
【場所】京都府木津川市木津清水 74-7
【URL】 <http://aikoufukushikai.jp>
【TEL】 0774-72-0167 【FAX】 0774-73-3586

オンラインで実施！
第9回きょうと地域福祉実践交流会

withコロナでつながる大切さ。とぎれさせないために

令和3年2月9日(火)きょうと地域福祉実践交流会が初のオンライン開催となりました。総勢約80人が集まり、コロナ禍で改めてつながりの大切さを確認する場となりました。

山下先生の基調講演

「なぜ地域福祉でつながりが大事なのか？」
「コロナ禍で改めて考える」

本来、人は支え合って生きる社会的な存在であり、コミュニティとは暮らしを支えあう関係です。

コロナ禍で暮らしの危機はますます露わになっていますが、自助努力だけでは解決できず、改めて住民主体の「お互いさま」の関係性に注目が集まっています。日常的な対話と交流、見守り・居場所づくり、支え合いを実現するためには地域に活動の場があつてこそです。コロナ禍でもこれまでの地域福祉活動を基盤にして、楽しさと感動を共有することを通してお互いの存在を認め、支え合うコミュニティが京都府内でも生まれています。



大谷大学 山下憲昭教授

コロナ禍でも生まれる新たな取り組み

事例1

【京丹波町社協】の場合
ボランティア活動者がYouTubeで活動配信して全国デビュー



緊急事態宣言発令期間中に、地元ボランティアによる体操動画を地元ケーブルテレビで放映したところ「何度も流してほしい」と住民の声があり、YouTubeで配信を開始した。「離れていても心はつながっているよ」、「頑張ってるコロナを乗り越えよう」など心あたたまるメッセージを発信している。地元はもちろん他府県や海外からの反応があり、お互いを繋ぐツールとして活用されている。

事例2

【木津川市社協】の場合
地区住民全員で共同農園を設立し、コロナ禍でも交流



コロナの影響でサロンが中止になる中、地域住民と自治会役員が「コロナ禍でも地域のつながりを絶やさない」という想いを共有し、「屋外でのサロンなら集まることのできる」という発想から「南平尾活き活き農園」が生まれた。畑の講習会や収穫祭、野菜販売などのイベントを定期的の実施し、南平尾地区の「普段から顔の見える関係」が広がっている。

地域で安心して元気に暮らしていくために

今年度は、コロナにより当たり前だった地域活動ができなくなり、どの地域においても、何のためにどのようにつながるかに立ち返る中で、新たな取り組みが生まれています。心を動かしながら楽しく活動をすることが、お互い様の関係性を育てていくことにつながっていきます。人が安心して元気に暮らしていくにはお互いのつながりの大切さが必要であり、同時にそれをサポートする社協の役割を改めて認識できる機会になりました。



京都府社会福祉協議会からのお知らせ

京都府の「保育園・認定こども園」就職フェア

京都府内（京都市以外）の保育園・認定こども園
【約25法人出展】が参加されます。
保育の仕事に関心のある学生の方はもちろん、一般の方も大歓迎！
履歴書は不要、服装も自由！是非、ご参加ください！

日時 5月9日(日) 10:00~14:00

会場 京都テルサ 西館1階「ホール」
(地下鉄「九条」④番出口 徒歩5分)

対象 保育園・認定こども園に就職を希望する一般・学生等の方

※新型コロナウイルス感染症への予防対策を実施します
(ご理解・ご協力をお願いします)
・体温測定、マスク着用、手指消毒、社会的距離の確保、ブースでのパーティション設置

問い合わせ先 京都府保育人材マッチング支援センター
TEL.075-252-6333
<http://fukujob.kyoshakyo.or.jp/hoiku>



経済センサス活動調査にご協力ください。

総務省と経済産業省は、令和3年6月1日現在で、「令和3年経済センサス・活動調査」を実施します。全国のすべての事業所及び企業が対象になります。皆様の調査へのご理解・ご回答をよろしくお願いいたします。



《アンケートご協力のお願い》

広報誌「京都の福祉」では、より良い紙面づくりのため、読者のみなさまにアンケートへのご協力をお願いしております。下記のURL、またはQRコードからアンケートにお答えいただき、率直なご意見・ご要望をお聞かせください。どうぞよろしくお願いいたします。



<https://forms.gle/PfNVBf83d12SVVwY6>

「京都の福祉」は、みなさまからの情報をお待ちしています！

府社協の広報誌「京都の福祉」は、「支える人を支える」をテーマに、読み手のみなさまに活用していただける紙面づくりに努めています。ご意見や感想はもちろん「こんなテーマを取り上げてほしい」「取材してほしい」、そんな情報をぜひ気軽にお寄せください。

● 本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

<http://www.kyoshakyo.or.jp> 京都府社協



令和3年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために！

◆ 加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

1 基本補償(賠償・見舞)

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

保険期間1年

▶ 年額保険料(掛金)

定員	基本補償(A型)
1~50名	35,000~61,460円
51~100名	68,270~97,000円
100名以降1名~10名増ごと	1,500円

基本補償(A型) 保険料 + [見舞費用加算]
定員1名あたり
入所: 1,300円
通所: 1,390円

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 施設職員の補償

プラン4 社会福祉法人役員等の補償



です。 割安な保険料 充実した補償と

スケールメリットを活かした

● この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

● このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
引受幹事 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
保険会社 TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)